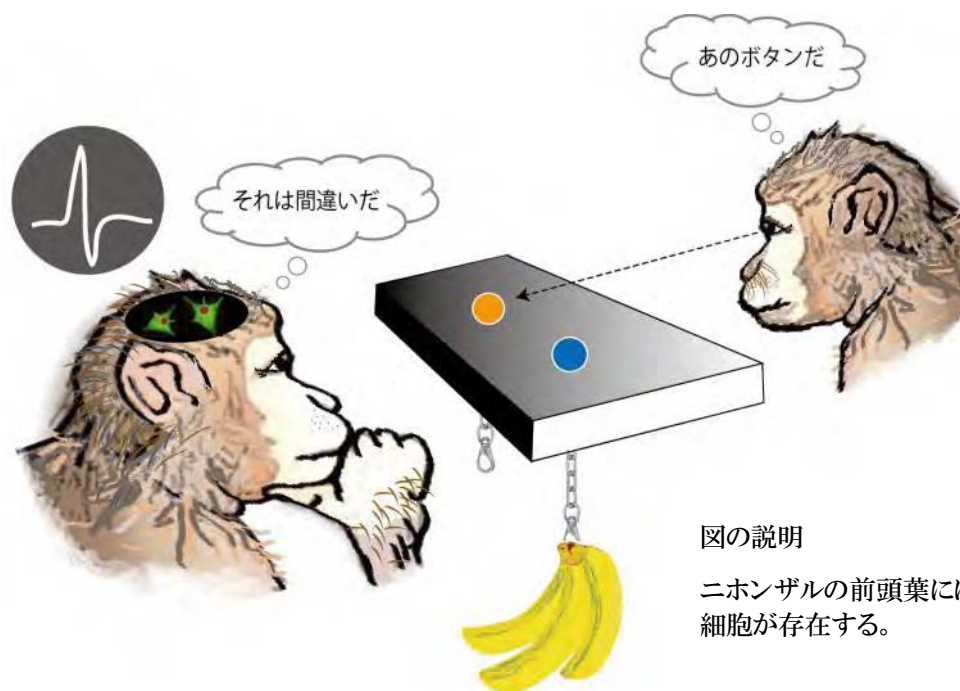


社会の中で生きる

磯田 昌岐(関西医科大学)

ヒトを含む霊長類は、社会の中で進化しながら種としての生存と発展を図ります。したがって、霊長類の脳は、社会の中で最適な状態となるように調整されていると考えることも可能です。これは、我々の認知機能や精神活動の神経メカニズムを深く理解するためには、社会という視点からのアプローチが欠かせないという考え方へとつながります。社会的認知機能の重要側面を的確に捉え、それを霊長類動物が実行可能で、かつ適切に制御された行動パラダイムの中に再現することにより、自己と他者の認知下における高次脳機能の神経基盤を明らかにすることが可能となってきました。本日のシンポジウムでは、そのようにして行われた研究成果の一端をご紹介します。



図の説明

ニホンザルの前頭葉には他者の間違いを検出する神経細胞が存在する。



関西医科大学医学部准教授。医学博士。

1994年新潟大学医学部医学科卒業。5年間の神経内科臨床の後、東北大学大学院医学系研究科博士課程入学、2003年修了。米国NIH研究員、理化学研究所研究員、沖縄科学技術研究基盤整備機構代表研究者を経て、2012年より現職。

専門は神経生理学。現在の関心は、行動の随意性、自己意識の神経基盤、社会性と自由意思等。